

📌 今月のポイント

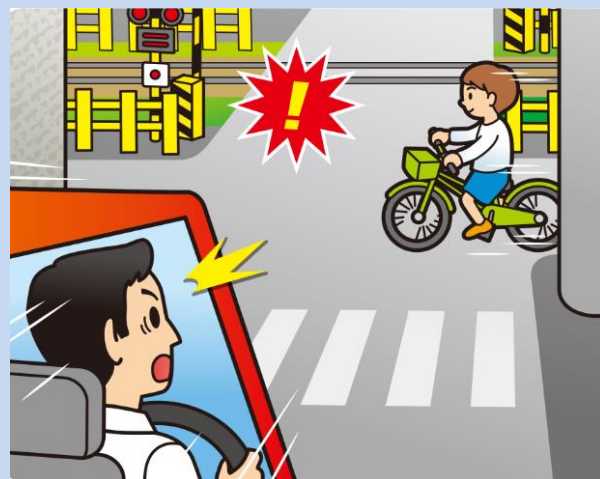
「まだ渡れる」 その踏切進入が大惨事を招く

～踏切事故はこうして防ごう～

踏切での交通事故は、復旧に時間がかかり利用者にも影響を与え、多くの死傷者を発生させるなど、重大事故につながることもあります。それだけに踏切を通過するときは十分な注意が必要です。今回は踏切を安全に通過するためのポイントを紹介します。

踏切に潜む危険を知ろう

- 警報が鳴り始めたことに気づき、「遮断機が下りる前に通過してしまおう」と考えると、思った以上に遮断機が早く降り、踏切内に閉じ込められる危険があります。
- 踏切の先が渋滞しているにも関わらず、強引に踏切内に進入すると、渋滞しているクルマが先に進まず、踏切を出ることができなくなる危険があります。
- 踏切の手前に線路と平行している見通しの悪い道路がある場合、早く踏切を渡ろうとして安全確認を怠ると、その道路から出てきた車や自転車などと衝突する危険があります。
- 踏切内で対向車とすれ違うとき、左端に寄り過ぎると落輪したり、歩行者などと衝突する危険があります。



あいおいニッセイ同和損保からのアドバイス

- ◆ 警報がなっている間（鳴り始めから鳴り終わりまで）の踏切への進入は禁止されています。警報が鳴り始めたら、「まだ渡れる」と考えず、必ず踏切の手前で停止しましょう。
- ◆ 踏切の先が渋滞しているときは、踏切の先に自車が進めるスペースができるまでは踏切の手前で停止し、決して踏切には進入しないようにしましょう。
- ◆ 踏切の手前に線路と平行した道路がある場合、交差車両や自転車などが出てくることを予測して、道路の手前で減速し、左右の安全確認をしましょう。
- ◆ 踏切内で対向車とすれ違うときは、落輪ないように左側のタイヤを意識しましょう。とくに夜間は側端が見えにくいので、できるだけ中央寄りを走行しましょう。



【ご参考】弊社のご支援メニュー

<自動車事故防止>

1. 安全運転セミナー（基本的な運転動作）
2. ペーパー式適性検査（KM式・DOCCS）
3. PCによる社員安全運転教育（e-ラーニング）・適性診断（e-診断）
4. 自動車事故防止のビデオ・DVDの視聴
5. タブレット端末、スマートフォンを活用した危険予測トレーニングツール（セーフティトレーナー）

<ニュース・チラシの提供>

1. 安全運転のポイント（毎月定例発行の具体的なニュース）
2. 社内講習会用冊子（ザ・メッセージ等）